

自由はパラダイス (1989)

FREEDOM IS PARADISE

メディア 映画

ジャンル

製作国 ソ連

色彩 Color

時間 75分

初公開日 1991/07/27

公開情報 ソヴェクスポルトフィルム提供／日本海

【解説】

“母を訪ねて”ならぬ、父を訪ねて何千里、という少年の話である。ただし、主人公は手首に“自由はパラダイス”などと入れ墨を彫っているような不良なので、甘い感傷にはひたれない。少年が幾度となく脱走する鑑別所は、まるで旧ソ連そのものみたいに鈍重で残酷。捕まった彼が、シャワー室で冷たい水を浴びせられ、折檻される姿の痛々しいこと。所長は鬼畜野郎で、色情狂の女の子をたしなめながらも、しっかりイタしてしまう。こんな所にいられるか。だが、孤児院育ちの少年が唯一頼れる父も、今は監獄の中。せっかく訪ねても、出られる見込みも定かではない、と知る。少年サーシャを演じる斜視でそばかすだらけのV・コズイリョフは、まるでルナルの“にんじん”を思わせる。彼の行き当たりばったりのふてぶてしい旅人ぶりと、それでも端々に感じさせる子供らしい優しさが、映画の魅力の核となる。

【クレジット】

監督	セルゲイ・ボドロフ	Sergei Bodrov
製作	セルゲイ・ボドロフ	Sergei Bodrov
脚本	セルゲイ・ボドロフ	Sergei Bodrov
撮影	ユーリー・スヒルトラーゼ	
音楽	アレクサンドル・ラスカトフ	
出演	ヴォローシャ・コズイリョフ	
	アレクサンドル・ブレーエフ	
	スヴェトラナ・ガイタン	